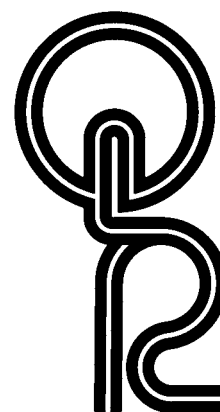


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 29 No.1, 2022



炭化物によるスウォッシュマーク。オーストラリア・ニューサウスウェールズ州南部、Bengello Beach。オーストラリア南東部では 2019 年末から 2020 年初めまで山火事が続いた。発生した大量の炭化物が海に流れ出し、その一部が波により海岸に堆積した。2020 年 2 月 18 日撮影。(田村 亨)

Vol. 29 No. 1

February 1, 2022

2022 年大会案内 (第 2 報) (再掲) ... 2	学会賞・論文賞等推薦のお願い (再掲)
JpGU2022 案内 (第 2 報) 2 4
学会賞・学術賞受賞記念講演会のお知らせ	紙碑 5
..... 3	執行部会議事録 7
	会員消息 8

◆日本第四紀学会 2022年大会案内(第2報)(再掲)

日本第四紀学会 2022年大会は以下の日程で開催予定です(会場の予約が2022年3月にならないと可能とならないため確定できませんが、現時点では以下の2つの日程を候補として検討しております)。

候補日①

- 8月27日(土) シンポジウム・普及講演会(一般市民を対象)
- 28日(日) 一般研究発表(口頭及びポスター) 評議員会
- 29日(月) 一般研究発表(口頭及びポスター) 総会 懇親会
- 30日(火) 巡検

候補日②

- 8月28日(日) シンポジウム・普及講演会(一般市民を対象)
- 29日(月) 一般研究発表(口頭及びポスター) 評議員会
- 30日(火) 一般研究発表(口頭及びポスター) 総会 懇親会
- 31日(水) 巡検

開催場所: 静岡県地震防災センター

開催方法: 完全対面、ハイブリッド、完全オンラインのいずれかの方式で、社会的な状況を見て判断する。

大会実行委員長: 北村晃寿(静岡大学)

実行委員: 中西利典(ふじのくに地球環境史ミュージアム)、西岡佑一郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム)

◆日本地球惑星科学連合 2022年大会のお知らせ(第2報)

日本地球惑星科学連合 2022年大会 -JpGU2022は、2022年5月22日(日)から6月3日(金)までの会期にて、ハイブリッド形式での開催となります。開催方法は大きく2つにわかれ、現地会場・オンライン両方でZoomライブ中継による口頭セッションおよび現地ポスター発表を実施するハイブリッド期間と、オンラインにてビデオ会議システム(例えばZoomブレイクアウトルーム)を用いてポスターの発表・議論を行うオンラインポスターセッションになっています。

ハイブリッド期間は5月22日(日)~5月27日(金)となり、現地会場は、「幕張メッセ」(千葉県)で行われ、口頭発表、各種イベント、現地ポスター発表が行われます。オンラインポスターセッション期間は5月29日(日)~6月3日(金)となります。発表者は、現地発表かオンライン発表か自由に選ぶことができます。本大会は8つのパブリックセッションを含めて230セッションが開催される予定になっています。現地開催の可否はおおむね3月頃に判断する予定になっています。新型コロナウイルス感染拡大の状況など総合的な見地から判断して、完全オンライン開催となる可能性があります。

最新情報を含めた詳細は、JpGU2022ホームページ(http://www.jpгу.org/meeting_j2022/)をご確認ください。

発表投稿受付は、2022年1月12日(水)~2月17日(木)まで行われております。

日本第四紀学会では、「第四紀: ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」セッションを単独で、「活断層と古地震」セッションを共同提案で主催します。また、「人間環境と災害リスク」セッションと「流域圏生態系における物質輸送と循環: 源流から沿岸海域まで」セッションの共催母体となっています。その他の第四紀学と関係する多数のセッションも開催されます。下記に主な関連セッションを挙げておきますので、会員の皆様の積極的な発表登録をどうぞよろしくお願い致します。

予稿投稿締切: 2022年2月17日(木) 17:00(早期締切: 2月3日(木) 23:59)

※いずれも日本時間(JST)となっています。

※通常投稿料: 8,800円、早期投稿料: 6,600円(税込)

※大会参加登録料は正規料金 33,000円、会員割引料金(JpGU、AGU、AOGS、EGU 会員) 22,000円です。

ただし、小中高教員、大学院生、シニア（70歳以上）は半額、学部生以下は無料となっています。また、2019年大会まで設定されていた一日券はありません。大会参加登録開始を3月下旬に予定していますが、受付開始前に完全オンライン移行となった場合には、料金の見直しを行います。万一、登録開始後にやむを得ず完全オンライン開催移行と判断した場合には、大会参加登録料は当初通りとなり返金はありません。

H-QR04：第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス（セッション言語：日本語、会場：Room11）

口頭：5月22日（日）AM2、PM1 現地ポスター：5月22日（日）PM3

オンラインポスター：5月30日（月）

S-SS12：活断層と古地震（セッション言語：日本語、会場：Room05）

口頭：5月22日（日）PM1、PM2 現地ポスター：5月22日（日）PM3

オンラインポスター：5月30日（月）

A-HW24：流域生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸まで（セッション言語：英語、会場：Room15）

口頭：5月24日（火）AM1、AM2、PM1、PM2 現地ポスター：5月24日（火）PM3

オンラインポスター：6月1日（水）

H-DS09：人間環境と災害リスク（セッション言語：日本語、会場：Room12）

口頭：5月22日（日）AM1、AM2 現地ポスター：5月22日（日）PM3

オンラインポスター：5月30日（月）

U-05：Advanced understanding of Quaternary and Anthropocene hydroclimate changes in East Asia（発表言語：英語、会場：Room16）

口頭：5月25日（水）PM2 現地ポスター：5月25日（水）PM3

オンラインポスター：6月2日（木）

※それぞれの時間帯は以下のとおりです。

AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15、PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-18:45

※オンラインポスターのコアタイムは各日とも11:00～13:00です。

※発表プログラムは2022年3月下旬に公開予定です。

◆ 2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞記念 第1回講演会のお知らせ

期 日：2022年2月12日（土）10:00～12:00

参加方法：Zoomによるオンライン講演会、無料（非会員の方でも参加できます）

申し込み方法：以下のリンクにある申込みフォームから、事前登録を行ってください。

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

<https://zoom.us/meeting/register/tJwctOygpz0rG9z27oRYfC-B8x1VcckZ8aL->

プログラム：

10:00～10:05 開会挨拶

10:05～10:55 学術賞受賞講演 中塚 武会員「気候変動の周期性と新しい人類史研究の可能性—樹木年輪の酸素同位体比が示唆するもの」

10:55～11:05 休憩

11:05～11:55 学術賞受賞講演 田村糸子会員「中央日本における鮮新—更新世の広域テフラ編年とその意義」

◆ 2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞記念 第2回講演会のお知らせ

2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞記念 第2回講演会は以下の期日で実施する予定です。申し込み方法は後日お知らせ致します。

期 日：2022年6月4日（土）10:00～12:00

参加方法：Zoomによるオンライン講演会、無料（非会員の方でも参加できます）

プログラム：

10:00～10:05 開会挨拶

10:05～10:55 学会賞受賞講演 川幡穂高会員「極端気候が促す日本人と日本社会の進化—過去・現在・未来—」

10:55～11:05 休憩

11:05～11:55 学術賞受賞講演 岡田 誠会員「房総半島の海成鮮新—更新統における古地磁気—同位体複合層序の構築とその意義」

◆ 2022年日本第四紀学会学会賞・論文賞等の推薦のお願い（再掲）

「日本第四紀学会会則」の第3条（3）に基づき、2022年日本第四紀学会学会賞（以下、学会賞）、日本第四紀学会学術賞（学術賞）、日本第四紀学会若手学術賞（若手学術賞）並びに日本第四紀学会論文賞（論文賞）、日本第四紀学会奨励賞（奨励賞）の受賞候補者の推薦募集を行います。前3賞は学会賞選考委員会が会員からの推薦をもとに受賞候補者を選考し、後2賞は論文賞選考委員会が会員からの推薦を参考に受賞候補者を選考します。最終的に2022年6月頃に開催される評議員会で受賞者が決定され、2022年大会で表彰される予定です。会員のみならず多数のご推薦をお待ちしております。

なお、推薦にあたっては、学会HPの「会則・規則」のページ（<http://quaternary.jp/intro/rules/rules.html>）に掲載されている「日本第四紀学会顕彰規程」及び関連する内規をご参照の上、下記に従って推薦書類をお送り下さい。また、過去に受賞した会員は、論文賞を除き同じ賞を受賞することはできませんので、学会HPの「歴史」のページ（<http://quaternary.jp/intro/history.html>）で歴代受賞者を事前にご確認頂きますようお願い致します。

1. 各賞の概要と推薦書類の記入内容

■学会賞・学術賞

学会賞と学術賞は、第四紀学の発展に寄与する研究や学会活動への貢献を行ってきた会員に贈られる賞です。

学会賞：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動および学会活動に貢献した正会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

学術賞：第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著書（研究グループ等を含む）によりなされた場合には、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

下記の情報を記した推薦書類を作成して、主要業績リストと併せて日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 学会賞の場合には、具体的な業績や活動内容を示した受賞件名
学術賞の場合には、授賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名
- (5) 推薦理由（1000字以内）

■若手学術賞

若手学術賞は国際誌等における研究発表を通して第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた若手会員（2022年4月1日時点で39歳以下の会員）に授与されるものです。受賞者数は若干名で、受賞対象は過去2年間の国際誌等に掲載された論文（オンライン化された論文を含む）の筆頭著者とします。受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

下記の情報を記した推薦書類を作成し、推薦する論文のPDFとともに学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 推薦論文題目、論文が掲載された雑誌名および出版年月・巻・号・頁、またはオンラインの公開日及び DOI
- (5) 推薦理由（800 字以内）

■論文賞・奨励賞

論文賞と奨励賞は、過去 2 年間に刊行された「第四紀研究」（第 59 巻第 1 号～第 60 巻第 4 号）に掲載された全ての論文（短報を含む）と著者が対象となります。

論文賞：会員である論文著者全員に授与。毎年 1～2 件程度。

奨励賞：会員である筆頭著者に授与。年齢は 2022 年 4 月 1 日時点で 35 歳以下。毎年 1～2 件程度。受賞者には副賞として 5 万円の奨学金が授与されます。

推薦書類には下記の情報を記し、学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 論文賞の場合には、全著者名と推薦論文名
- (4) 奨励賞の場合には、候補者名と推薦論文名
- (5) 推薦理由（1000 字以内）

2. 推薦書類の送付先

各賞の推薦書類は、郵送または電子メールで日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。送付先の住所ならびに送信先のメールアドレスは下記のとおりです。

郵送：〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル

メールアドレス：daiyonki(at)shunkosha.com (“(at)”の部分を“@”に変えて下さい)

郵送の場合の宛名は、学会賞・学術賞・若手学術賞の推薦書類については、「日本第四紀学会 学会賞選考委員会」宛、論文賞・奨励賞の推薦書類については「日本第四紀学会 論文賞選考委員会」宛として下さい。電子メールの場合には、上記のそれぞれの宛先名を電子メールの件名に入力して送信して下さい。なお、PDF 等のファイルを電子メールで送る場合、その容量が大きい場合（10MB 以上）には、ファイル転送サービスを利用して下さい。

3. 提出期限

推薦書類の提出期限は、いずれも 2022 年 2 月 28 日（月）（必着）です。

◆糸魚川淳二先生を偲んで

地質学者、古生物学者、博物館研究者、そして文化人でもあった糸魚川淳二先生は、かねてより療養中のところ、令和 3 年（2021 年）11 月 11 日、ご逝去されました。92 歳でした。日本第四紀学会には 1965 年度以来、のべ 22 年間評議員として貢献され、2006 年に名誉会員に推薦されています。

糸魚川先生はさまざまな研究をされていますが、とりわけ瑞浪層群をはじめとする瀬戸内中新統に関する地質・古生物学的研究、そこから明らかになった中期中新世における熱帯的古環境の研究で広く知られています。

第四紀に関連するご研究としては、愛知県内の海成中位段丘構成層である小坂井泥層（1964 年）、碧海層（1968 年）、野間層（1985 年）の貝類化石についての先駆的な研究があります。また、丹念な地質調査に基づき層序学的な研究を東海層群について行いました。とくに、糸魚川（1971）では火山灰層の記載を詳細に行い、現在広域テフラとして知られている大田火山灰層、東谷火山灰層、佐布里火山灰層を命名・記載しています。

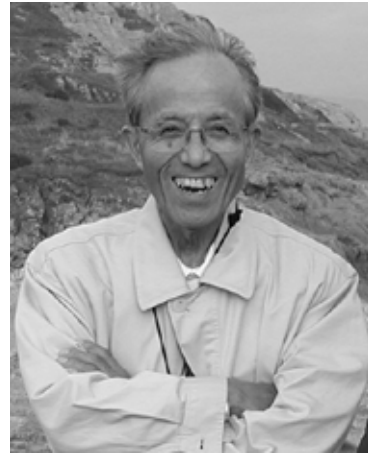
糸魚川先生は 1929 年に岐阜県恵那郡坂下町（現中津川市坂下町）でお生まれになりました。「地学

をやっているうえで2つ得をしている。坂下で生まれたことと糸魚川という苗字だ。」とおっしゃっていました。阿寺断層と糸魚川—静岡構造線のことです。先生は戦中戦後の混乱期に岐阜県恵那中学校、海軍経理学校予科、第四高等学校を経て1949年に京都大学に入学されています。1957年には名古屋大学理学部に赴任、1993年の定年退官まで36年間奉職され、その後名古屋大学名誉教授になられました。

糸魚川先生はたいへん温厚な人柄で、写真のような笑顔がとても似合う方でした。ときおり厳しい表情をされることもありましたが、ほんの一瞬のことでした。研究室の雰囲気は極めて自由で、研究テーマの決め方も、学生自身が大枠を考え先生と相談するスタイルでした。私が後期博士課程進学時に大きくテーマ変更する際も、まったく反対されることはなく、山形大学の山野井 徹先生(現名誉教授)を紹介くださいました。楽しいと思うことをやりなさい、と励ましていただきました。

糸魚川先生の研究の大きな方向として「古生態学」がありました。この観点から、現在の環境観察を重要視されており、とくに中期中新世の熱帯的古環境の研究に関連して、1980年以来15回にわたって、東南アジアを中心としたマングローブ沼の観察をされました。後半の5回には私も同行させていただき、マングローブ沼の観察の仕方などを教わりました。現地ではリーダーとして、潮の時間を確認し調査計画をたてられました。調査は干潮時の比較的短時間に集中的に行っていたため、そのあとはビール、となりました。調査記録は瑞浪市化石博物館専報第9号(2003)「マングローブ沼の比較環境学—日本(中新世)と東南アジア・南西太平洋(現生)、軟体動物と花粉を中心に—」などにまとめられています。

糸魚川先生はまた、博物館研究の第一人者でもありました。1974年の瑞浪市化石博物館の設立に関わったことを発端に、ヨーロッパ在外研究期間中には当時博物館先進国であった国々の150館を巡り、日本での博物館のあり方を考えました。その後、豊橋市自然史博物館の設立にも関わり館長も務められました。国内外の博物館をいったいいくつ観てまわられたのだろう、と思います。これらの経験に基づく理念などは「博物館だより ヨーロッパに原点をもとめて」や「日本の自然史博物館」などの著書にまとめられています。また、糸魚川先生は私設の博物館「半原版画館」をご自宅に併設されています。ご自身のコレクションである明治時代の石版画の展示、企画展では芸術家に発表の機会を提供されていました。先生ご自身も版画をされ、作品は「日本の自然史博物館」などの著



(2004年、英国ウェールズにて。筆者撮影)

書の装画に使われています。

先生の自然史研究への意欲は晩年も衰えることはありませんでした。先生は東海地方の湧水湿地に分布する東海丘陵要素のシデコブシ・ハナノキ・ヒトツバタゴの生育環境調査を、2004年ころから本格的に始められました。1990年に「日本シデコブシを守る会」の設立に関わり会長を務められたことが契機となっています。保護・保全のためには、まずは現状把握からと考えられてのことです。調査のまとめは瑞浪市化石博物館研究報告に3部作として発表されています。ご自身で観察・記録された大量のデータに基づき、地質学・古生物学の知識を橋渡しにして起源や生物地理に新しい解釈を加えています。新第三紀～現世、そして人間活動を含めた糸魚川先生ならではのご研究となっています。

シデコブシ関連の研究は、お住まいと半原版画館があり先生の主要な研究フィールドであった瑞浪地域、また阿寺断層の代表的な観察地域であり、生まれ育った地でもある坂下地域が主要な調査域に含まれています。奥様によると、体調を崩される2021年8月までは、毎日のように自生地の調査に行かれていたとのこと。いろいろなことを思い出しながら調査をされていたことと想像します。

本稿はお正月に書いています。大学院生のころは、毎年先生のお宅にお邪魔して、お酒とお料理をたらふくご馳走になっていました。思い出しながら筆をおきます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

本稿をまとめるにあたり、奥様の糸魚川登美子様、瑞浪市化石博物館の柄沢宏明様、静岡大学の延原尊美様、名古屋大学の氏原 温様にご協力いただきました。御礼申し上げます。

(名城大学理工学部 齊藤 毅)

◆日本第四紀学会 2021 年度第 3 回執行部会議事録

日 時：2021 年 12 月 15 日（水）13:00～15:35
 方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議
 出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、
 須貝俊彦（副会長）、水野清秀（庶務）、
 那須浩郎（広報）、山田和芳（渉外）、
 苅谷愛彦（編集）、堀 和明（領域 2）、
 卜部厚志（領域 3）、目代邦康（領域 5）
 代理出席者：坂下 渉（会計委員会、代齋藤）
 欠席者：工藤雄一郎（行事）、田村 亨（領域 1）、
 海部陽介（領域 4）
 オブザーバー出席：永峯菜穂子（事務局）

主な報告事項

- 1) 2 件の転載許可申請があり、承認した。また、1 件の「第四紀研究」執筆者による転載の届け出があった。
- 2) 2022 年日本第四紀学会学会賞、学術賞、若手学術賞、論文賞、奨励賞の受賞候補者推薦について、第四紀通信に募集記事を掲載した（締切：2022 年 2 月 28 日）。
- 3) 業務委託費第一回請求分、2021 年大会関連費用の不足分（Zoom のクラウドストレージ使用量）に対し、予算の執行を行った。
- 4) 繰越金や予算案にない今後の予算使用提案を執行部会から募り、学会の諸システムの IT 化や「第四紀研究」の電子化などの提案を受け、見積もりを取って会計委員会にて検討を行った。
- 5) 「第四紀研究」投稿論文の審査と編集を行った。12 月 7 日現在の手持ち原稿は、受理前 14 編、受理済 6 編（うち 3 編は早期公開済みまたは 12 月 13 日までに早期公開予定であり冊子体として 61-1 と 61-2 で配付予定；3 編は早期公開準備中であり冊子体は 61-2 またはそれ以降で配付予定）。
- 6) 2021 年 7 月開催の本学会共催イベントの特集号「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害：防災・減災に向けて」（仮）の準備を開始した。投稿予定数は 18 編（巻頭言を除く）で、2021 年度が投稿期限の予定。
- 7) 「第四紀通信」第 28 巻 6 号を編集・刊行した。また、学会ホームページの更新とメーリングリストでの情報配信を行った。
- 8) 日本第四紀学会 2022 年大会（一般研究発表、シンポジウム・普及講演会、総会、巡検など）を、主催会場静岡県地震防災センターとして 2022 年 8 月 27 日（土）～30 日（火）または 8 月 28 日（日）～31 日（水）に行うこととした（会場予約が 2022 年 3 月にならないとできない）。完全対面、ハイブリッド、完全オンラインのいずれかで

行うこととする。

- 9) 第 6 回防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）が 11 月 6・7 日に開催され、シンポジウム「防災教育と災害伝承への多様な視点—東日本大震災から 10 年を経て—」にて西山賢一会員が日本第四紀学会として講演を行った。シンポジウム参加者は、390 名であった。
- 10) 日本地球惑星科学連合 2022 年大会（JpGU2022）について、セッション割が確定した。主催共催セッションの「第四紀：ヒトと環境」は、5 月 22 日（日）AM2-PM1 の 2 コマ。「活断層と古地震」は、5 月 22 日（日）PM1-2。
- 11) JpGU 学協会長会議が 2021 年 11 月 29 日（月）に開催され、鈴木会長が参加した。今後 PEPS で学会にレビュー論文を依頼する予定がある。また、フェローや三宅賞候補者推薦をお願いする。
- 12) 国際土壌科学連合（IUSS）の役員選出への学会対応を行い、会員からの意見を募集して候補者の推薦を行った。

主な審議事項

- 1) 事務局に届いた第四紀学会への寄贈文献、書評用の献本についての扱い方の基準について議論を行った。また、学会あてに個人的に質問があった場合の扱いについても議論を行った。
- 2) 後援依頼のあった第 36 回地質調査総合センターシンポジウム「3 次元で解き明かす東京都区部の地下地質」について、後援を承認した。
- 3) システムの IT 化や「第四紀研究」の電子化などを進めることに関して会計上の議論を行った。初期設定にかかる一時的な費用と長期的に維持費などで必要な予算を総合的に考える必要があり、会員マイページやそのほかの事務局のシステムのほか、既存の web システム、HP の利用などを含めて、関係する委員会などと詳細な検討を進めていくことにした。
- 4) 「第四紀研究」と「第四紀通信」を同月発行・同封発送とすること（2、5、8、11 月発行）について、学会事務局及び創文印刷工業（株）、担当書記のいずれも支障がなく、同封発送することで発送費の軽減にも繋がることから、2023 年（62 巻）1 号から変更するスケジュールで準備・対応する案を承認し、評議員会に諮ることにした。
- 5) 第四紀通信の表紙写真が不足しているため、各領域から順に写真を提供することにした。また、HP に掲載する「第四紀通信」ではカラー写真とすることも検討する。
- 6) 学会賞・学術賞受賞者講演会の予定について、

必ずしも評議員会と同日に行う必要はなく、講演者の予定を優先して、行事委員会を中心に調整することとした。

7) 研究評価に関するサンフランシスコ宣言、特に、責任あるオーサーシップの慣行と各著者個別の貢

献についての情報提供を促すこと、をうけて、「第四紀研究」に各著者個別の貢献の記載を行うことを確認し、執筆要項を変更することにした。編集委員会で改訂案を作成し、執行部会に諮り、次回評議員会にかけることにした。

.....

★★★ 情報発信を希望される方へお願い ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願いします。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください (ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルは ML に配信致しません。
- (2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報 (こちらは HP のみの掲載となります) 等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。
- (3) 第四紀通信の表紙用の写真 (または作成した画像) を受け付けています。詳細は第四紀通信 27 巻 6 号の巻末をご覧ください。
- (4) 第四紀通信は偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、奇数月下旬に版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：那須浩郎・オブラクタ スティーブン フィリップ・丹羽雄一・竹下欣宏・小森次郎
広報書記：岩本容子・奥村公弥子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル
株式会社春恒社 学会事業部内
E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176